

Plant Sci. 8, 2031.  
Pourkheirandish, M. *et al.* 2015. Evolution of the grain dispersal system in barley. Cell 162, 527-539.  
Poursarebani, N. *et al.* 2015. The Genetic Basis of Composite Spike Form in Barley and 'Miracle-Wheat'. Genetics 201, 155-165.

Poursarebani, N. *et al.* 2020. COMPOSITUM 1 contributes to the architectural simplification of barley inflorescence via meristem identity signals. Nat. Commun. 11, 5138.  
Sakuma, S. *et al.* 2019. Unleashing floret fertility in wheat through the mutation

of a homeobox gene. Proc. Natl. Acad. Sci. USA 116, 5182.  
Sakuma, S. *et al.* 2011. The domestication syndrome genes responsible for the major changes in plant form in the Triticeae crops. Plant Cell Physiol. 52, 738-749.

#### 田畑の草種

#### 大金鶏菊 (オオキンケイギク)

キク科ハルシャギク属の一年草あるいは多年草。全国の路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸などに多い。背丈は30cmから70cm。花はコスモスに似た形状で、径5～7cmほど。花茎の先端に黄色の頭状花を1つ付ける。特に高速道路の法面緑化に使われた関係で、花期である5月から7月の高速道路脇が黄色く染まるのはこの花である。

1998年の夏、武田鉄矢氏創作の童話「二十六夜まわり」をベースにしたテレビドラマが終戦特別企画として放映された。ドラマは和久井映見演じる小学校教師が、急死した祖母の遺品を持って、祖母の人生の謎の部分を探るため鹿児島県開聞町へ向かうところから始まる。ヒロインはそこで戦争に翻弄された祖母の悲恋を知ることになる。戦争末期、翌朝にも特攻隊として出撃していく若い隊員たちがいた。彼らは出撃の前夜、地元の宿に投宿し親元のように寛ぐのだが、物資が少ない中、地元の人たちは彼らに自分たちの食べ物を惜しみなく振る舞った。

翌朝、宿の女将さんと少女は、特攻隊として出撃する隊員に裏山の土手から摘んできたという黄色い花束を手渡す。ドラマのタイトルは「二十六夜参りー特攻花・学術名不詳ー」とあり、その花が何かは明らかにしていないが、手渡した花束はオオキ

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

ンケイギクを思わせる黄色い花束であった。

戦後、鹿児島島の基地のあった周辺で群生するようになった黄色い花を「特攻花」と呼ぶようになり、さらに特攻隊の悲劇が語られていく中で特攻花＝オオキンケイギクという図式が出来上がっていったように思う。さらにそのことがこのドラマに続いていくのである。

しかし、武田氏の原作童話は完全な創作であるとしながらも、山桜、タンポポ、サクラソウ、スマレは出てくるがオオキンケイギクは出てこない。オオキンケイギクは明治時代中頃に鑑賞を目的にアメリカから導入されたが、それから半世紀、終戦の頃に鹿児島県南部に繁茂していたのかどうか。

鹿児島県にある知覧特攻平和会館が発行する「知覧特攻平和会館紀要」には、女学生が綴った日記の研究などが記されているが、そこに出てくる「花」は「八重桜、山吹、木蓮、つつじ、れんげ草、菜の花、椿」などでオオキンケイギクはない。

オオキンケイギクは2006年に「外来生物法」に基づく特定外来生物に指定された。原則として栽培、譲渡、販売、輸出入が禁止される。違反すると個人なら3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人なら1億円以下の罰金が科せられることになる。